KAWA TO HITO Magazine Vol.40

川と人

Vol.40

CONTENTS

○ごあいさつ …… 02
（一財）石狩川振興財団 理事長　森田　康志

○特集 …… 03
河川協力団体

○石狩川の歴史 …… 09
大地を拓いた東北のサムライ

○流域の現在 …… 12
・深川市　食の宝庫の挑戦と石狩川の恵み
・中富良野町　香る景色の創造と交流
・長沼町　町まるごといただきます

○世界川紀行 …… 15
・オランダにおける“Room for the River”プロジェクト
寒地土木研究所寒地河川チーム研究員　川村里実 氏

○河川トピックス …… 19
・石狩川流域連携宣言調印式の実施
・「水防災意識社会　再構築ビジョン」の策定

○石狩川振興財団の活動報告 …… 21
・流域環境保全活動
・河川教育活動
・NPO・市民団体への支援・助成
・平成 27 年度市町村河川情報委員 情報交換会議
・石狩川流域圏会議

ごあいさつ

一般財団法人 石狩川振興財団理事長　森田　康志

石狩川振興財団は、平成４年５月に公益法人として設立されました。今年は設立以来 25 年目という節目の年ですが、この間一貫して、石狩川流域の市町村や NPO 等との連携を保ちながら、川への理解を深める活動や、川を軸とした流域振興を進める活動を行ってきました。

近年、毎年のように大きな災害が発生しており、平成 27 年９月の関東・東北豪雨災害では、宮城県、栃木県を中心に、16 箇所の観測地点で 24 時間雨量が観測史上第１位を記録する豪雨があり、利根川の支流の鬼怒川の堤防が決壊、茨城県常総市では避難が遅れた約 4,300 名が救助されました。この災害を踏まえて、国土交通省は新たに「水防災意識社会　再構築ビジョン」を策定し、スマホ等を活用したプッシュ型河川情報の提供等により、住民が自主的に、円滑かつ迅速に避難できるようにする「住民目線のソフト対策」を打ち出しました。北海道内の各河川でも取り組みが進められています。

一方で、市町村、地元住民、河川管理者が連携して、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指す「かわまちづくり」の支援制度実施要綱が平成 28 年２月に改定され、民間事業者が参加可能となる等、河川空間を地域活性化のために活かそうという取組が強化されました。

このような動きは、平成 25 年６月の河川法改正で新たに位置付けられた河川協力団体と併せて、河川管理者が、様々な機関や団体等と積極的に連携して、防災や河川管理を進めていこうとする一連のものであり、連携というキーワードの重要性が増しています。また、行政においても、国の各機関、各地方自治体の間の連携の必要性がますます高まっています。

こうした中で、安全で潤いのある、また元気な地域を実現するためには、当財団がこれまで培ってきた各市町村や NPO、市民団体及び河川管理者とのコミュニケーションネットワークを、これまで以上に活用することが有用であると考えています。平成 28 年度において、当財団は、石狩川流域の全 46 市町村長により構成される石狩川流域圏会議の活動を支援し、流域市町村の活性化を目指します。また、NPO 等と連携して行う活動の中では、砂川遊水地等において、小中学生といった次代を担う世代を対象とする河川環境や水防災に関する学習活動に、引き続き力を入れていきます。

コミュニケーションネットワークを活かし、石狩川振興財団は、川づくり、まちづくり、人づくりという３つの「つくり」を、これからも進めていきますので、ご指導、ご支援をお願いいたします。

平成 28 年７月

初開催の「河川協力団体のつどい」に北海道内指定団体と河川管理者が一堂に会した（平成 28 年 2 月 5 日開催）

特集

河川協力団体

協働型河川管理の実現へ！

平成 25 年 6 月に河川法が改正され、河川管理者と、自発的に河川の維持等の活動を行う民間団体等との信頼による、協働型河川管理を目的とした河川協力団体制度が創設された。

平成 28 年 3 月末現在、北海道では 22 団体が指定され、そのうち石狩川流域は 11 団体である。

河川協力団体制度とは

自発的に河川の維持、河川環境の保全等に関する活動を行うNPO 等の民間団体を支援するもの。河川協力団体として活動を適正かつ確実に行うことができると認められる法人等が対象となる。河川管理者に申請を行い、申請を受けた河川管理者は、適正な審査のうえ、河川協力団体として指定する。

河川協力団体としてのおもな活動

1. 河川管理者に協力して行う河川工事または河川の維持
2. 河川の管理に関する情報または資料の収集および提供
3. 河川の管理に関する調査研究
4. 河川の管理に関する知識の普及および啓発

河川協力団体の指定を受けると

1．法律上に規定されている河川協力団体として指定されることとなる
2．許可の簡素化：河川協力団体が活動するために必要となる河川法上の許可等について、河川管理者との協議をもって足りることとなる
3．当該活動に関して、必要となる情報の提供等を河川管理者から受けられる
4．河川管理者が必要と認める場合、河川管理施設の維持、除草等の委託を受けることも可能となる

くわしくは　ウェブサイト北海道開発局「河川協力団体制度について」

http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_kasen/kyoryoku/
北海道開発局 建設部 河川計画課 調査係
TEL．011-709-2311（内線 5318）

石狩川流域の河川協力団体指定状況

栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会／夕張川シンポジウム

山のない北村の輝き／魚類調査と水質調査

まち・川づくりサポートセンター／石狩川クリーンアップ作戦

石狩川下覧櫂／砂川遊水地水上体験会

幾春別川をよくする市民の会／ふれあいメンテナンス

石狩川流域の河川協力団体　H28.3.31 現在

法人等の名称 おもな活動	水系名・河川名		業務を行う河川の区間 上流端	業務を行う河川の区間 下流端
赤平ラブ・リバー推進協会 河川清掃（植花活動含む）、河川美化啓蒙活動	石狩川・空知川		虹かけ橋付近（18.2k）	豊橋付近（16.3k）
幾春別川をよくする市民の会 河川清掃、自然体験学習	石狩川・幾春別川		若松町 328 番地先付近（7.0 ～ 7.4k）	
			狩野橋付近（10.2k）	西新橋付近（8.7k）
			川向頭首工付近（17.0 ～ 17.2k）	
石狩川下覧櫂 河川清掃、自然体験学習（川下り、子ども川塾など）	石狩川・石狩川		砂川遊水地付近	
			雨竜川合流点付近（105.0k）	美浦大橋付近（71.0k）
公益財団法人 河川財団 豊平川・雁来河川健康公園の管理（河川清掃、堤防等除草）	石狩川・豊平川		月寒川合流点付近（7.5k）	雁来新川合流点付近（6.0k）
栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会 動植物調査、自然体験学習、夕張川に関するシンポジウム等	石狩川・夕張川		川端橋付近（44.6k）	幌向川合流点付近（2.5k）
NPO 法人 まち・川づくりサポートセンター 河川清掃、自然体験学習、滝川地区地域防災施設「川の科学館」展示物の説明等	石狩川・石狩川		平成橋付近（97.5k）	ラウネ川合流点付近（96.2k）
			妹背牛橋付近（113.6k）	雨竜川合流点付近（106.5k）
			滝川地区地域防災施設	
NPO 法人 山のない北村の輝き 河川調査、自然体験学習、植樹、河川管理者と連携した伐木処理	石狩川・旧美唄川		桜づつみ公園付近（6.5k）	開基橋付近（4.1k）
			北村地区河川防災ステーション周辺	
株式会社 協和コンサルタント 河川清掃	石狩川・美瑛川		両神橋付近（1.0k）	忠別川合流点付近（0.0k）
NPO 法人 グラウンドワーク西神楽 河川清掃、自然体験学習ほか	石狩川	美瑛川	寿橋付近（14.0k）	新開橋付近（12.0k）
		辺別川	旭橋付近（2.0k）	美瑛川合流点付近（0.0k）
河川愛護団体 リバーネット 21 ながぬま 自然体験学習、子ども水防団の訓練、植樹活動	石狩川	夕張川	長栗大橋付近（14.8k）	
		嶮淵川	舞鶴遊水地	
NPO 法人 ふらっと南幌 月 1 回のフットパス事業、河川清掃（除草含む）、植物調査、自然体験学習、幌向湿原の調査・勉強会	石狩川	夕張川右岸	清幌橋下流付近（10.0k）	栗幌橋付近（5.3k）
		夕張川	清幌橋上流付近（11.4k）	石狩川合流点付近（0.0k）
		旧夕張川	馬追運河合流点付近（3.5k）	千歳川合流点付近（0.0k）
		千歳川	旧夕張川合流点（16.4k）	石狩川合流点付近（0.0k）
		石狩川	夕張川合流点付近（30.4k）	千歳川合流点付近（28.0k）

石狩川流域以外の道内河川協力団体

（ ）内は業務を行う河川名

NPO 法人 後志利別川清流保護の会（後志利別川）／NPO 法人 沙流川愛クラブ（沙流川）／釧路リバープロテクション 21 の会（新釧路川・釧路川）／NPO 法人 十勝多自然ネット（札内川・十勝川）／NPO 法人 常呂川自然学校（常呂川・無加川）／NPO 法人 天塩川を清流にする会（天塩川）／ルルモッペ河川愛護の会（留萌川）／NPO 法人 しりべつリバーネット（尻別川）／ネイチャー研究会 in むかわ（鵡川）／十勝川中流部市民協働会議（十勝川）／NPO 法人 帯広 NPO28 サポートセンター（十勝川・札内川・帯広川）

特集

石狩川流域の先進的な自然体験学習

栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会

夕張川支川ハサンベツ川流域のハサンベツ地区の里山づくりと自然環境の復元を目的に、小川づくりや湿原再生等さまざまな活動を行う。子どもたちの自然体験学習では、年間 2,000 人以上を受け入れている。また、夕張川流域の小・中学生を対象にした夕張川下りや環境調査に、平成 27 年度は約 300 人が参加した。北海道の自然環境保全活動の先導的な存在である。

◎おもな受賞歴：H21 年コカ・コーラ環境教育賞優秀賞、H22 年環境省「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰、H23 年田園自然再生活動コンクール農林水産大臣賞ほか

TOPIC　事務局長の高橋慎さんが「博報賞」と「前田一歩園賞」を受賞。30 年にわたる自然環境保全再生の町民活動等が評価された。

夕張川での自然体験学習

NPO 法人 山のない北村の輝き

山がないハンディをバネに、多様な視点でまちづくり・ひとづくりに取り組む。旧美唄川・水辺の楽校で行われる「川をはかる・川を見る・川を知る」河川調査講習会は、本格的な各種観測と調査を、地域の子どもたち等 30 人と行う画期的な取り組み。冬は、北村地区防災ステーションを拠点に、「雪中植林 & 雪中河川体験ツアー」を開催。バイオブロック工法で親子一緒に雪中植林し、雪の滑り台やスノーモービルなどで雪の河川空間を体感する。平成 27 年度は親子 158 人が参加した。

TOPIC　「緑の回廊づくり植樹と石狩川治水の歴史を学ぶ」は、平成 27 年度で第 18 回を迎えた。

河川調査講習会の魚類調査

河川愛護団体リバーネット21 ながぬま

水害の歴史を、世代間交流を通して語り継ぐことを目的に、千歳川支川嶮淵川と夕張川において、小・中学生の自然体験学習、環境調査・研究を行う。なかでも子ども水防団の訓練は、水中歩行訓練、土のう積み、ロープワークなど本格的な水防訓練で、平成27年度は28人が参加した。平成25年度第6回いい川・いい川づくりワークショップ準グランプリ受賞をはじめ、全国的に知られる活動である。

◎おもな受賞歴：H21年第11回日本水大賞国土交通大臣賞、H23年コカ・コーラ環境教育賞優秀賞、
H24年全国みどりの少年団連盟協会長賞ほか

TOPIC　Facebookを開設し、リアルタイムな情報発信を行っている。

本格的な子ども水防団の訓練

NPO法人グラウンドワーク西神楽

西神楽地区の歴史や景観を活かし、子どもたちに誇れる「ふるさと」をつくるため、グラウンドワーク手法を取り入れたまちづくりを展開。景観と環境を考慮したまちづくりでは、美瑛川に、フットパス、ビオトープ、パークゴルフ場を整備し維持管理等を行う。美瑛川さと川づくりでは、水質・水生生物等の調査を行い、平成27年度は17名が参加した。

◎おもな受賞歴：H25年国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」、
H27年第17回日本水大賞の審査部会特別賞

TOPIC　「西神楽さと川パークゴルフ場」が平成27年に15周年を迎え、記念に「パークゴルフ場物語」が発刊された。

西神楽中学生が参加する美瑛川の水質・水生生物調査

特集

「河川協力団体のつどい」初開催

平成 28 年 2 月 5 日（金）、情報提供と活動報告および意見交換等を目的に、「河川協力団体のつどい」が北海道開発局にて初開催され、全道から指定 18 団体と河川管理者ら 95 名が出席した。

全国では、関東地方と中部地方で河川協力団体の地域協議会が設立され、東北地方と近畿地方でも予定されている。また九州では、河川管理者が九州河川協力団体連絡会議を立ち上げている。北海道でも、本制度の運用について議論し、流域交流をする場の設立が望まれている。

また、河川協力団体制度は、川の理解を深める場・環境学習に最適の場と期待されているが、人材と器材、専門的なノウハウ、資金等の不足という課題もある。本つどいでは、「まず、官民の信頼関係を構築するため、恒常的な意見交換の場づくりが必要」との認識で一致した。

意見交換の風景

今後も意見交換をすることが必要

おもな意見

河川協力団体制度、目指す方向性等

- ○ 官民協働型管理に防災の概念を取り入れる。防災教育も河川協力団体の役割りである。
- ○ 連携をとりながら、いい川づくりに発展させたい。
- ○ 話し合いの場をつくること、役割分担を決めることが大事。
- ○ 地元の河川協力団体等と長年議論を重ねたことでいい成果が出ており、活動の誇りになっている。
- ○ 河川協力団体が、気持ちを一つにして勉強しながら進むと、楽しく有意義になる。
- ○ 活動している川には、国・道・自治体が管理する川があり、流域を含めて連携したい。
- ○ 民間主導の会議では、自由な発言・本音が聞ける場となっている。

活動資金に関する要望等

- ○ 河川協力団体の活動支援のため、資金を確保してほしい。
- ○ 専属の若い人を 1 団体に 1 ～ 2 名付けることができる資金計画、資金調達ができる工夫がほしい。

大地を拓いた東北のサムライ

岩手県奥州市民劇「大地の侍・吉川鉄之助物語」の１場面

長沼町開祖の故郷・岩手県奥州市で上演された市民劇「大地の侍・吉川鉄之助物語」（写真提供：岩手県奥州市）

平成 27 年 12月、岩手県奥州市で、市民劇「大地の侍・吉川鉄之助物語」が上演された。吉川鉄之助は仙台藩支藩水沢藩家臣の子で、長沼町の開祖である。北海道開拓は、戊辰戦争で敗れ、行き場を失った東北の士族救済も担っていた。

北海道新幹線の開業でより近くなった東北。東北の士族による石狩川流域の開拓を振り返る。

当別町（仙台藩支藩岩出山藩）

本庄陸男の小説「石狩川」は、伊達政宗が藩主を務めた仙台藩の支藩、岩出山藩主従一行による当別町の開拓を描いたものだ。岩出山城は、徳川家康が滞在し、政宗が居城とした由緒ある城であった。政宗の直系である藩主・伊達邦直は、家臣救済のため北海道開拓を決意し、明治４年、第１団 180 人が北海道へ渡った。厚田（聚富）

伊達邦直を御祭神とする当別神社（当別町元町 51 番地 12）

の支配が許されるが耕作に向かず断念。当別の支配が許され、石狩から当別の道路を開く。翌年、岩出山藩からは、第２団 169 人が渡り開墾に着手。実績を上げ、明治 18 年、悲願であった士族復籍が叶った。なお、「石狩川」は、昭和 31 年に「大地の侍」として映画公開もされている。

伊達邸別館（明治 13 年建築、迎賓館。当別町有形文化財）当別町元町 105 番地１

伊達邸別館２階居間

伊達邸別館への入口

伊達邸別館１階会議室にある甲冑

隣接する伊達記念館には移住に関する資料や伊達家主従ゆかりの品々が展示されている

札幌市（仙台藩白石片倉家）

伊達政宗に支えた名将・片倉小十郎の末裔片倉邦憲家臣約 600 人移住団のうち 67 人は、明治４年、望月寒川流域に入植、短期間で住まいを完成させた。その働きぶりに感心した岩村通俊開拓使判官は、その地を「白石村」と命名した。また、白石村から分かれた一行が手稲を開墾した。

片倉家家臣たちが入植の翌年の明治５年につくった遥拝所がはじまりの白石神社（札幌市白石区本通 14 丁目北１番 12 号）

栗山町
（仙台藩支藩角田藩）

開祖・泉麟太郎は、仙台藩支藩角田藩主石川家の家臣である。明治２年、家臣 51 人は、室蘭の貸付を許可され、翌年に入植した。しかし、土地が狭いことなどから限界を感じ、麟太郎は、「夕張開墾起業組合」を設立し、明治 21 年、24 人で夕張川支流阿野呂川左岸（角田）に入植した。麟太郎は初代戸長に就き、亜麻生産も奨励した。明治 28 年に設立した「角田村水利土功組合」（初代組合長）は、明治 35 年の北海道土功組合法発布に伴い北海道第１号となった。夕張川頭首工を建設し（川端ダムの完成により撤去）、本道稲作の先駆的役割を果たした。

泉記念館（明治 31 年建築、住宅。栗山町有形文化財）栗山町角田 60 番地４

なお、角田藩主石川邦光は、角田町（宮城県角田市）初代町長の職を辞し、明治 26 年、250人余りを連れて南幌町に入植した。邦光は角田町に戻るが、開墾は進められた。

長沼町
（仙台藩支藩水沢藩）

吉川鉄之助は水沢藩の家臣の長男で、明治４年に 13 歳で両親や水沢藩の家臣ら 200 人と札幌の平岸に入植した。開拓使学校雇となり、札幌農学校（現北海道大学）に勤務、クラーク博士の教えを受ける。明治19年、夕張河畔を視察し、入植を決意、明治20 年、家族らとともに北長沼に入植した。西洋農業を採り入れ、短期間で開墾を成し遂げる。初代戸長に就き、道路や橋、馬追運河などの建設に力を注いだ。その功績が評価され、「吉川村」という村名が道庁から提案されるも、固辞。近くにあったタンネトー（アイヌ語で細長い沼）にちなみ長沼村とした。

吉川鉄之助像　長沼町中央北１丁目１番１号（長沼町役場）

東北とはいえ、当時、来道は命がけで、明治４年には白石片倉家の開拓団を乗せた船が木古内町の沖合で座礁する事故も起きた。ちなみに、北海道新幹線は新函館北斗から盛岡まで最速で１時間50分、仙台までは最速２時間 30 分である。

参考・引用：「石狩川」、札幌市白石区「歴史」、札幌市手稲区史跡ガイド、栗山町史、北海道立文書館泉麟太郎資料、南幌町開拓史、長沼町の歴史、東北文化財映像研究所ライブラリー「吉川鉄之助」、コトバンク日本の城がわかる事典

流域の現在

深川市

食の宝庫の挑戦と石狩川の恵み

数々のご当地グルメを発信中

北海道のほぼ中央に位置し、北に雨竜川、南に石狩川が流れる深川市は、道内有数の良味・良質米の産地であるとともに、そばは全国第２位、切花は北海道第１位の生産量を誇り、りんごをはじめ果物作りも盛んな食の宝庫だ。旬を味わうのも良いが、「深川そばめし」等、ご当地グルメを味わうのも、また良し。深川市は、「ふかがわ地域資源活用会議」を設立し、広く市民の参画を得て、新たな地域資源の掘り起こしに挑戦している。地元の大学で開発された黒米「きたのむらさき」を、麺類やスイーツ、どぶろく等に商品化・メニュー化し提供する「黒米プロジェクト」、深川牛やふかがわポークの加工品、りんごのジャムやパイなど、豊かな食材を使い、主食･軽食からスイーツまで揃えている。その中でも注目のグルメがある。

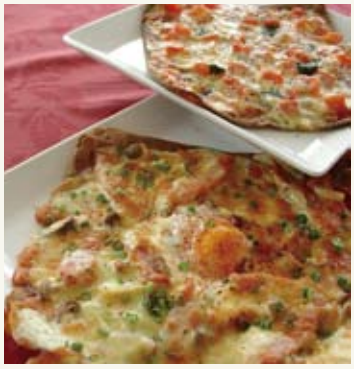
「秋の味覚市＆こめっち新米フェア」。10 月中旬、道の駅ライスランドふかがわ（写真提供：深川市）

石狩川沿いに広がる深川市。国見公園から望む（写真提供：深川市）

そばクレープ＆シードルと大正用水

フランスブルターニュ地方では、りんご発泡酒とともにガレットが食されていることから、深川市では、「深川そばクレープ（ガレット）」と「ふかがわシードル」の普及に力を入れている。ガレットは、日本でも専門店ができるほど人気で、深川市では、市内レストランで提供されているほか、イベントでも提供されている。おしゃれでヘルシーな看板メニューが加わった。

そんな食の宝庫を、100 年にわたり支えている「大正用水（現在の深川幹線用水路）」。当初の計画では雨竜川が水源だったが、反対論が起こり、石狩川に変更され、大正元年に着工、大正５年に完成した。今、石狩川の取水口周辺には、水源神社や調節水門が並んでいる。水の恵み、先人への感謝を表すとともに、歴史を後世に伝えている。



フランスの香り漂う、深川そばクレープ（ガレット）とふかがわシードル（写真提供：深川市）

大正緑道内にある水源神社（写真提供：深川市）

1980年代後半まで使われていた手動式のユニークな調節水門（写真提供：深川市）

●道の駅「ライスランドふかがわ」
（深川市音江町広里 59 番地７　tel 0164-26-3636）
●アップルランド山の駅おとえ
（深川市音江町字音江 589 番地 28　tel 0164-25-1900）
●レストランマザーズカントリー
（深川市音江町字音江 777 番地　tel 0164-26-3939）
昨年から「ふかがわ新そばフェスタ」を開催！
９月 10 日　深川市文化交流ホール み・らい（深川市５条７番 20 号）

流域の現在

中富良野町

香る景色の創造と交流

多彩な花畑をめぐる醍醐味

北海道の中央・富良野盆地に位置する中富良野町。ラベンダーシーズンに設置されるラベンダー畑駅から、空知川支川・富良野川を渡ると、ラベンダー畑の草分けで日本最大規模の「ファーム富田」に至る。園内には 10 の花畑やハウス、ラベンダー関連のショップやカフェもあって、通年観光が可能だ。ラベンダー畑から田園・十勝岳を愛でることができるのは、冬はスキー場の「町営ラベンダー園」だ。そして見晴らしの良い「彩香の里・佐々木ファーム」。３つの大きな花畑とともに、刈取り体験できる「NANAKA の花畑」や、サフォークのバーベキューが楽しめる「ラベンダー園ひつじの丘」など、年間 104 万人が訪れる中富良野町の観光は、多彩な花畑を五感で満喫できることが特徴だ。

「６月 11 日から９月 25 日まで走る富良野美瑛ノロッコ号（写真提供：中富良野町）

手入れが行き届いた役場前花壇（写真提供：中富良野町）

町営ラベンダー園から田園と十勝岳を望む（写真提供：中富良野町）

●ファーム富田　中富良野町基線北 15 号
tel 0167-39-3939
●町営ラベンダー園　中富良野町１番 41 号
tel 0167-44-2123（役場産業建設課）
●彩香の里　佐々木ファーム　中富良野町西１線北 12 号 tel　0167-44-2855
●NANAKA の花畑　中富良野町丘町３-53
tel 090-9519-4683
●ラベンダー園ひつじの丘　中富良野町ベベルイ
tel 090-1302-1422
なかふらのラベンダーまつり＆花火大会
７月 16 日　町営ラベンダー園ほか

花の町のトップランナーとして

「花と香りと味覚のまち」をテーマにまちづくりに取り組む中富良野町は、駅前や役場前などに花壇を置き、花の町をアピールしている。最近の動きは、花によるつながりだ。フラワー都市交流連絡協議会は、花をまちづくりのシンボルにする全国９都市の花のまちが集まったもので、年１回の交流訪問をし、花苗等の交換、交流物産展、東日本大震災被災地へシンボル花の提供などを行っている。また、ラベンダー交流を図る秋田県美郷町とは、平成 27 年５月に連携協力協定を正式に締結した。白いラベンダー「美郷雪華」の栽培に成功した美郷町とは、ラベンダー苗と栽培技術情報の交換、観光やイベントでの特産品販売、人材交流を目指すという。多くの人々を魅了しつづける景観は、都市間交流にも活かされている。

秋田県美郷町から贈られた白いラベンダー「美郷雪華」（写真提供：中富良野町）

「フラワー都市交流連絡協議会（北海道中富良野町、山形県長井市、富山県砺波市、岐阜県大野町、静岡県下田市、兵庫県宝塚市、山口県萩市、福岡県久留米市、鹿児島県和泊町）の観光大使（写真提供：中富良野町）

町内を流れる空知川支川富良野川（写真提供：中富良野町）

流域の現在

長沼町

町まるごといただきます

長沼グリーンツーリズムを確立

石狩平野の南東に位置し、北に夕張川、南西に千歳川、西に旧夕張川が流れる長沼町。それ故に水害に苦しんできた歴史を有するが、現在は米をはじめ多くの農作物を生産し、畜産も盛んだ。長沼町は、札幌市や新千歳空港から近い立地を生かし、都市との交流と田園都市づくりに取り組み、平成 16 年にグリーン・ツーリズム特区、平成 17 年にどぶろく特区となり、平成 19 年には空知管内初の景観行政団体となった。首都圏や近畿圏からの修学旅行生等年間約4,000人を受け入れ、10 年をかけて長沼型グリーンツーリズムを確立した。5 戸の農家でつくられるどぶろくは、道の駅等で販売されている人気商品だ。さらに、「食のブランドづくり推進室」を設立し、イメージづくり・人づくり・ものづくりを柱に、「農と食」の価値を高め、発信している。

千歳川に架かる舞鶴橋と田園（写真提供：長沼町）

農家民宿・体験交流での学生たちの農業体験（写真提供：長沼町）

にぎわう道の駅マオイの丘公園・農産物直売所（写真提供：長沼町）

町内の農家でつくられた豊かな味わいのどぶろく（写真提供：長沼町）

食のブランドづくり推進室が制作したポスター（写真提供：長沼町）

ファームレストランの先駆け、ハーベスト（写真提供：長沼町）

自家農園で収穫された農産物を使ったメニュー（写真提供：長沼町）

訪れる人が元気になる町へ

なだらかな馬追丘陵の裾野に広がる田園、馬追運河に羽を休める白鳥…。都市近郊にありながら季節により姿を変える風景は、長沼町の重要な資源であることから、「緑の百景づくり」や「花いっぱい運動」を推進し、その美しい景観に磨きをかけている。

長沼町は平成 16 年、北海道初のスローフード宣言をし、食の魅力を多面的に発信し、先進的な農業の町となった。地元のリンゴ農家が始めたファームレストラン「ハーベスト」は、今や 1 時間待ちも当たり前の人気で、売上は経営する農園を超えるという。身近な美しい景観の中で、「自分で採りたい」「採れたてを買いたい」、「新鮮で安全・安心なものを味わいたい」という時代のニーズに、十分に応えつづけていく。

●道の駅 マオイの丘公園　長沼町東 10 線南 7 番地　tel 0123-84-2120
●ファームレストラン　ハーベスト　長沼町東 4 線北 13 番地
tel 0123-89-2822

世界川紀行

ワール川

オランダにおける”Room for the River” プロジェクト

Room for the River PROJECT

寒地土木研究所寒地河川チーム研究員
川村 里実氏

オランダの概要

2014 年 8 月 28 日～9 月 1 日にオランダを訪問した際のことを紹介します。

オランダはヨーロッパの北西部に位置し、北と西は北海に面する国で、国土面積は九州とほぼ同じ約 4万平方キロメートル（外務省 HP 2016）、人口は 1,697 万人（2015 年オランダ中央統計局）です。また、国土の約 1/4 が海面下に位置するため、古くから高潮や洪水の被害を防ぐための治水事業が進められてきました。オランダといえば、明治政府により当時治水先進国であったオランダから招かれたヨハネス・デレーケ技師が頭に浮かぶ方もいることでしょう。

オランダを訪問した目的は、河川災害や氾濫原管理に関わる研究を遂行する上で、研究連携の模索とオランダの治水事業について現地の状況を確認するためであり、当時、寒地土木研究所特別研究監であった吉井厚志氏、同研究所寒地河川チームの私がオランダを訪問しました。今回の訪問では、オランダ政府職員の方

オランダ位置図（引用元 :Google map）

の案内で現在進行中の治水事業の現地を視察させていただいたので、そこで実施されていたプロジェクトを中心に紹介します。この現地視察は、デルフト市にあるDeltaresという水理研究所のDr. Giri氏（アドバイザー／技術研究員）の協力により実現したものです。Deltaresは、もともとは国立の研究機関でしたが、2008年に関連機関と合併し、独立法人の研究機関となり、現在は水理・水文や水資源の多岐にわたる分野の応用研究が実施されている研究所です。今回のオランダ滞在中、Deltaresにも訪問し、技術者を対象とした講演やオランダ国内の研究者とのセミナーに参加し、技術や研究についての意見交換も行いました。

”Room for the River”プロジェクト

オランダには、洪水氾濫と戦ってきた歴史があります。オランダ政府は、将来さらに深刻な洪水が頻発する恐れがあるとして、2007年に”Room for the River”という計画を決定しました。これは、出水や高潮によって河川水位が大きく上昇するような洪水が生じても河川水位を安全に管理できるように、河川に空間的な余裕を与えることを目的とした計画です。30箇所以上の地区で対策がなされており、高水敷や低水路の掘削による河道断面の拡大や、橋脚や水制などの河道内構造物の撤去や切り下げ、引堤や堤防の切り下げ、干拓地の河川用地への転用など、それぞれの地区の地域特性に適した対策が実施されています。この計画は2016年までにほぼ完了する予定であり、今回の訪問では完了が間近に迫ったこの一大プロジェクトのうち、ノードワード地区とワール川で実施されている2箇所のプロジェクトを、オランダ政府の事業担当の方に案内していただきました。

ノードワード地区は、面積が4,450ヘクタールあり、ニューウェ・メルウェデ川に接した広大な農地が、かつては輪中堤によって洪水から守られていた干拓地でした。この地区で実施されていたプロジェクトは、堤防の一部を切り下げることによって、河川水位が高い時には氾濫水をノードワード地区へ出入りさせるというものです。堤防の切り下げによって頻繁に浸水することになる区域は河川用地として転用されます。遊水地のような洪水調整効果が確保され、近隣流域の安全

”Room for the River”プロジェクト一覧（引用元：https://www.ruimtevoorderivier.nl/wp-content/uploads/2016/04/VV_Kaart-RvdR_450x297_APRIL16_HR300DPI_Engels.pdf

今回の視察箇所（下図の引用元：https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%83%AB%E5%B7%9D#/media/File:Location_Waal.PNG）

Room for the River PROJECT

性を向上させることが目的です。河川用地へ転用された地区では浸水の頻度が高まりますが、農家の安全を確保するために、集落を再編し、集落地の地盤のかさ上げが行われていました。また、河川用地へ転用されずに残る農地もあり、この区域は堤防によりある程度の安全度が確保されるそうです。これらの農地も 1/100 年または 1/1,000 年確率の洪水時には浸水する計画となっていて、地区によって異なる安全度が設定されていることが特徴的でした。氾濫規模によって被害面積をなるべく最小限に止める工夫であるとともに、1/1,000 年確率規模の洪水をも想定した計画であることにオランダにおける治水の先進性を感じました。

ノードワード地区

堤防切り下げによるノードワード地区での浸水図

ノードワード地区における農家の再編とかさ上げ

ノードワード地区の農地

もう一つの視察箇所であるワール川は、ドイツから流れてくるライン川が分岐した川の一つであり、北海やロッテルダム港とドイツ各地を結ぶ主要航路の一つとなっています。そのため、ワール川では、船の運航が可能な水深を確保して航路を維持する必要があり、航路となる低水路を固定する目的で水制工群が設置されています。しかし、水制工によって、河川の流下断面が減少するとともに、流れの抵抗が増大して水位が上昇するという問題があります。そこで、このプロジェクトでは、必要な水制工の配置等を検討し、既設の水

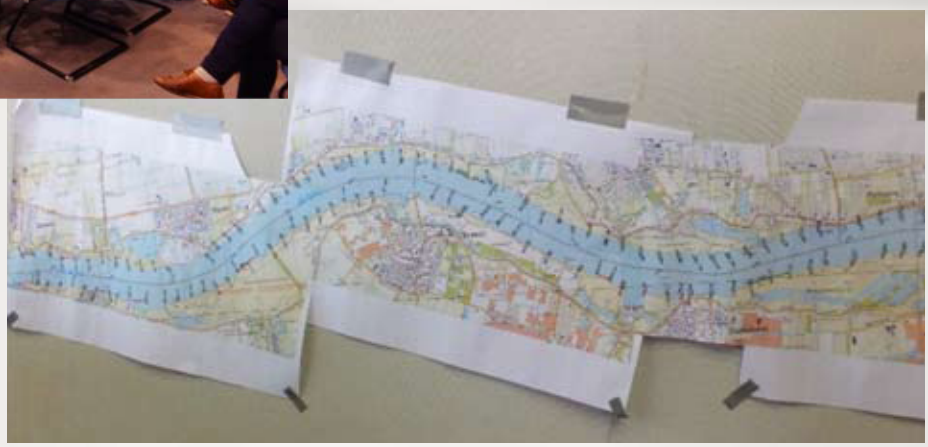
Room for the River PROJECT

ワール川視察での観測船内にて

制工の切り下げや撤去が実施されています。ワール川での視察では、作業船に乗せていただき、実際に水制工を切り下げる工事が進められている現場を船上から見学しました。膨大な数の水制工が配置されているワール川ですが、あと 1~2 年でほぼ完了するとのことでした。

ワール川の水制工切り下げ工事

Deltares での講演


ワール川に配置された水制工群

オランダ訪問を経て

オランダ滞在中に訪問した Deltares では、研究所職員を対象とした講演会を開催していただき、吉井氏より日本における治水事業への取り組みが紹介されました。講演には、100 人以上の研究者や技術者が参加し、質疑応答では、日本の災害や寒地土木研究所の研究活動に関して多くの質問が寄せられました。特に、石狩川の氾濫原の変遷や遊水地事業についての説明に対しては、石狩川の水辺空間を活用した治水対策や環境保全がオランダの”Room for the River”プロジェクトと目的がよく似ていることから、聴衆者の関心も高く、講演を通して有意義な情報交流ができました。オランダと日本では河川の特徴は異なりますが、共通する目的・課題があるということを、講演やセミナーを通して改めて確認することができました。

また、今回視察した 2 箇所の現地は、オランダ国内の 30 箇所以上で実施されている”Room for the River”プロジェクトのほんの一部ですが、少なくとも視察した箇所では、前にも述べたとおり既設の治水施設の切り下げや撤去を中心とした計画が進められていました。これらの現地視察を通して、私自身は”Room for the River”プロジェクトに対して、洪水との戦いというより、洪水との共存というイメージを強く感じました。このプロジェクトもほぼ完了の時期を迎えています。今後どのように機能するか、期待を込めて注目していきたいと思っています。

石狩川流域連携宣
言調印式の実施

「水防災意識社会
再構築ビジョン」の策定

I 石狩川流域連携宣言調印式の実施

平成 28 年 5 月 27 日、石狩川流域圏会議と、北海道及び北海道開発局の三者による石狩川流域連携宣言調印式が実施され、西川将人旭川市長（石狩川流域圏会議議長）、高橋はるみ北海道知事、本田幸一北海道開発局長が調印しました。

石狩川流域では、流域の安全・安心に資する取組や、豊かな環境・資源を活かした魅力ある観光地域形成等の地域活性化の取組が、石狩川流域全 46 市町村の首長で構成する「石狩川流域圏会議」で進められています。本連携宣言は、3 月に閣議決定された「新たな北海道総合開発計画」等を踏まえ、三者が更なる連携を図り、上記の取組を推進していくことを目指しています。

石狩川流域連携宣言（全文）

石狩川水系にある 46 市町村で構成される石狩川流域圏会議、北海道開発局及び北海道は、災害時における相互支援など石狩川流域の安全・安心や、豊富な地域資源を活かした活性化に資する次の取組を、流域の総合的な発展のため、連携して推進することをここに宣言する。

■石狩川流域の安全・安心に資する取組

・近年の気候変動等を鑑み、石狩川流域の災害被害の低減に向けた取組を推進する。

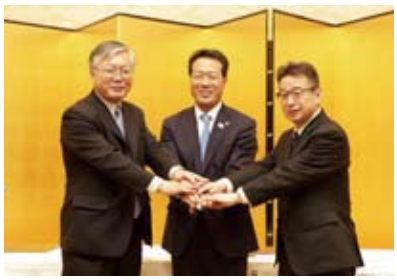
■豊富な地域資源を活かした活性化に資する取組

・石狩川流域の更なる活性化に向け、流域の観光及び地場産業の活性化など地域の振興に向けた取組を推進する。

平成 28 年 5 月 27 日

石狩川流域圏会議議長　旭川市長　西川　将人
北海道知事　高橋　はるみ
北海道開発局長　本田　幸一

調印式の様子


石狩川流域連携宣言調印式（左から北海道開発局本田局長、西川旭川市長、高橋知事の代理・名取建設部長）

Ⅱ「水防災意識社会　再構築ビジョン」の策定

1. 大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨による鬼怒川等の大規模な水害の発生を踏まえ、治水施設の施設能力を上回る洪水時における氾濫による災害リスク及び被害軽減を考慮した治水対策を検討するため、「大規模氾濫に対する減災のための治水対策検討小委員会（委員長：小池俊雄東京大学大学院教授）」が設置されました。この小委員会において議論された内容が、平成 27 年 12 月 10 日、「大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方について」として、社会資本整備審議会会長から国交大臣に対して答申されました。9 月上旬の鬼怒川の破堤を受けて、小委員会の開催は 2 回（10 月 30 日と 11 月 30 日）というスピード審議で、取り組みに対する切迫感が感じられます。

2. 水防災意識社会　再構築ビジョン

この答申を踏まえ、12 月 11 日に、国交省は、すべての直轄河川（109 水系）とその沿川市町村（730 市町村）において、「平成 32 年度を目途に、水防災意識社会を再構築する取り組みを行う」という、「水防災意識社会再構築ビジョン」を発表しました。同ビジョンでは、各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、次に示すハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進することとしています。

○ソフト対策としては、住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成 28 年出水期までを目途に重点的に実施することとしました。具体の内容は、

(1) 住民等の行動につながるリスク情報の周知（・立ち退き避難が必要な家屋倒壊危険区域等の公表（水害リスクの高い 70 水系は 28 年出水期まで、残りは 29 年出水期まで）、・住民のとるべき行動をわかりやすく示したハザードマップへの改良、・不動産関連事業者への説明会の開催）。石狩川では、6 月 30 日に、オサラッペ川（鷹栖町から旭川市を流れる支川）のハザードマップが公表されており、その他の河川については今後順次公表される予定です。

(2) 事前の行動計画作成、訓練の促進（・タイムラインの策定（水害リスクの高い約 400 市町村は 28 年出水期まで、残りは 32 年度まで））。 北海道内の一級河川では、留萌川において行動計画の作成が先行して進められ、6 月 29 日に公表されました。石狩川は、既存の石狩川下流水防連絡協議会の中に「石狩川下流減災対策委員会（委員長：札幌開発建設部長）」、石狩川上流・天塩川上流水防連絡協議会の中に「石狩川上流減災対策委員会（委員長：旭川開発建設部長）」が設置され、検討が進められています。また、 タイムラインについては、北海道内では滝川市において取組が先行しています。

(3) 避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供（・水位計やライブカメラの設置（洪水リスクの高い区間は 28 年夏頃までに設置）、・スマホ等によるプッシュ型の洪水予報等の提供（28 年出水期から順次））。

○ハード対策としては、「洪水を安全に流すためのハード対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成 32 年度を目途に実施することとしました。

(1)「洪水を安全に流すためのハード対策」として、優先的に整備が必要な全国の区間約 1,200 キロについて、32 年度を目途に、堤防の嵩上げや浸透・侵食対策等を実施。石狩川では、浸透対策 33.3 キロ、パイピング対策 8.1 キロ、流下能力対策 47.7 キロ、侵食・洗掘対策 6.8 キロが実施されます。

(2)「危機管理型ハード対策」として、当面の間堤防整備に至らない区間など 1,800 キロについて、32 年度を目途に、堤防天端のアスファルト保護、堤防裏法尻のブロック等による補強等行い、堤防決壊までの時間を少しでも延ばす対策を実施。石狩川では、堤防天端の保護 275.0 キロ、堤防裏法尻の補強 58.6 キロが実施されます。

石狩川振興財団の活動報告

01 流域環境保全活動
02 河川教育活動
03 NPO・市民団体への支援・助成
04 平成 27 年度 市町村河川情報委員 情報交換会議

01 流域環境保全活動

石狩川振興財団では、石狩川流域 300 万本植樹運動等、流域の緑化活動を積極的に支援・推進して、地球温暖化問題への市民意識高揚を図るとともに、ゴミ拾いなど石狩川クリーンアップ作戦を積極的に支援しています。

石狩川クリーンアップ作戦

○事業対象者／石狩川流域市町村住民
○実施場所／石狩川流域市町村の堤防・河川敷等
○実施月日／平成 27 年 5 月 1 日から 8 月 7 日
○参加人数等／ 23 団体、9,227 人

事業内容　各市町村の市民団体等と河川敷のゴミ収集を行なう

平成 6 年から継続実施する息の長い活動

第 14 回 水源の森創造交流会2015

○事業対象者／滝川市民・南富良野町民
○実施場所／南富良野町かなやま湖畔（フォレストタウン記念植樹の森）
○実施月日／平成 27 年 9 月 6 日

事業内容　空知川源流の森に、空知川で結ばれた滝川市と南富良野町の住民が植樹をし、交流を図る

詳細は　一般財団法人　石狩川振興財団　ウェブサイト
http://www.ishikari.or.jp/ 河川活動 / に掲載しています

02 河川教育活動

石狩川振興財団では、石狩川の水害や治水の歴史、水利用、流域の風土・水文化、防災、河川環境及び川の安全利用などをテーマに、地域の NPO 等と連携して川や河川管理施設等で学習活動を実践しています。

ワカサギ釣り（2 回実施）

○事業対象者／砂川市民
○実施場所／砂川遊水地
○実施月日／平成 28 年 2 月 6 日
○参加人数等／ 72 名（子ども 43 名）

○事業対象者／長沼町に住む親子
○実施場所／砂川遊水地
○実施月日／平成 28 年 2 月 13 日
○参加人数等／ 35 名（子ども 21 名）

事業内容　遊水地の話、ワカサギ釣り指導、ワカサギ釣り、ワカサギの天ぷら試食

冬ならではの体験を親子で満喫

さけ稚魚放流会

○事業対象者／月形町の保育園児、小学生など
○実施場所／須部都川（ちらいおつ遊び塾裏）
○実施月日／平成 27 年 4 月 15 日
○参加人数等／約 140 人

事業内容　さけ稚魚放流、洪水に関する紙芝居

役場でふ化させた稚魚 1,200 尾を放流

防災フェスティバル

○事業対象者／砂川市民
○実施場所／砂川遊水地管理棟、砂川遊水地
○実施月日／平成 27 年 8 月 2 日

事業内容　防災についての講演、降雨体験、魚類調査、E ボート・カヌー体験

菅井貴子さんによる講演「砂川市の防災」

自然体験学習会

○事業対象者／長沼町小学生等
○実施場所／江別河川防災ステーション、千歳川
○実施月日／平成 27 年 8 月 22 日
○参加人数等／ 18 名（子ども 11 名）

事業内容　E ボート体験、魚すくいと魚の勉強会、舞鶴遊水地の学習会

川の中に入るのは初めて！

魚類観察会

○事業対象者／砂川市民
○実施場所／砂川パンケ歌志内水門吐き水路
○実施月日／平成 27 年 8 月 29 日
○参加人数等／ 18 名（子ども 14 名）

事業内容　施設の観察、魚類の捕獲と調査、魚類の観察

捕獲した魚について学習

洪水 DIG（災害図上訓練）

○事業対象者／石狩市わかば地区地域会議
○実施場所／千歳市防災学習交流センターそなえーる
○実施月日／平成 27 年 10 月 10 日
○参加人数等／ 45 名

事業内容　DIG（災害図上訓練）、避難物資カードを使った演習、東日本大震災 DVD 鑑賞

非常時に持ち出しする物を確認

落ち葉アート

○事業対象者／砂川小学校 1 年生
○実施場所／砂川遊水地管理棟
○実施月日／平成 27 年 10 月 14 日
○参加人数等／ 45 名（子ども 42 名）

事業内容　落ち葉アートづくり

ハサミやノリを使って切り貼り

詳細は　一般財団法人　石狩川振興財団　ウェブサイト
http://www.ishikari.or.jp/ 河川活動 / に掲載しています

03 NPO・市民団体への支援・助成

市民団体等が主体となって推進する川を基軸としたまちづくり、環境学習活動および健康増進活動等に対し支援・助成を行っています。

①NPO・市民団体等への支援・助成

NPO など非営利活動団体に対して支援・助成を行っています。平成 28 年度はこれまでのところ 20 団体です。支援団体名と助成金合計はつぎの通りです。

平成 28 年度　市民団体等支援・助成概要

1	特定非営利活動法人　札幌歩こう会	継　続
2	石狩川下覧櫂	継　続
3	「緑とエコ」サポーターネット	継　続
4	河川愛護団体　リバーネット 21 ながぬま	継　続
5	特定非営利活動法人　まち・川づくりサポートセンター	継　続
6	砂川子ども水辺協議会	継　続
7	特定非営利活動法人　北海道市民環境ネットワーク	継　続
8	バイオブロック工法普及連絡協議会	継　続
9	特定非営利活動法人　山のない北村の輝き	継　続
10	和光地区子ども会育成連絡会	継　続
11	精進川美化緑化の会	継　続
12	たきかわ子ども水辺協議会	継　続
13	道北の地域振興を考える研究会	継　続
14	特定非営利活動法人　当別エコロジカルコミュニティー	継　続
15	ダウン・ザ・テッシ - オ - ペッ実行委員会	継　続
16	公益社団法人　滝川スカイスポーツ振興協会	継　続
17	特定非営利活動法人　沙流川愛クラブ	継　続
18	徳富川ラブリバー推進協議会	新　規
19	特定非営利活動法人　江別における持続可能なコモンズのためのしくみ（ミズベリング江別）	新　規
20	中川町観光協会	新　規
	支援・助成金合計　　3,320,000 円	

平成 28 年 6 月 15 日現在

石狩川下り（まち・川づくりサポートセンター）

ごみ拾いビーチウォーク石狩浜（北海道市民環境ネットワーク）

川をはかる・川を見る・川を知る（山のない北村の輝き）

②公益目的事業による支援

石狩川流域の振興に資する各種大会や連携講座などのイベントに協賛し、その活動を支援しています。

平成 28 年度　公益目的事業支援概要

1	スカイスポーツ協会	継　続
2	ツール・ド・北海道協会	継　続
3	大雪忠別湖トライアスロン実行委員会	継　続

平成 28 年 7 月 31 日現在

04

平成 27 年度 市町村河川情報委員 情報交換会議

石狩川振興財団では石狩川流域全 46 市町村の河川担当部長・課長から構成される市町村河川情報委員を運営しています。平成 27 年 10 月 27 日（火）、石狩川流域 44 市町村の河川情報委員と、北海道開発局、北海道から 75 名が参加して、「市町村河川情報委員情報交換会議」を札幌市で開催しました。

平成 27 年 9 月に関東・東北豪雨が発生し、住民の生命財産を守る第一線に立つ市町村の役割がますます大きくなっていることから、今回も「防災」をテーマとしました。北海道開発局から、「避難を促す緊急行動」について詳しい説明があり、各機関が情報を共有し一体となって減災に取り組む重要性を改めて確認しました。

平成 27 年度　市町村河川情報委員 情報交換会議　プログラム

1 開会挨拶

石狩川振興財団会長
黒氏 博實氏

2 情報提供

1 国・北海道からの情報提供

最近の河川行政について

北海道開発局建設部河川計画課河川企画官
井田 泰蔵氏

土砂災害への対応について

北海道建設部土木局河川砂防課主幹（砂防）
南里 智之氏

石狩川流域北海道管理区間の現状と整備方向について

北海道建設部土木局河川砂防課主幹（河川計画）
松田 哲夫氏

石狩川下流の現状と整備方向について

北海道開発局札幌開発建設部河川計画課長
桝井 正将氏

石狩川上流の現状と整備方向について

北海道開発局旭川開発建設部治水課長
吉村 俊彦氏

避難を促す緊急行動について

北海道開発局札幌開発建設部河川管理課長
秋山 泰祐氏

治水事業のストック効果について

北海道開発局札幌開発建設部河川計画課長　桝井 正将氏
北海道開発局旭川開発建設部治水課長補佐　古賀 文雄氏

石狩川下流の自然再生について

北海道開発局札幌開発建設部河川計画課流域計画官　田代 隆志氏

河川のサイクリングロード活用について

北海道開発局旭川開発建設部治水課流域計画官　森田 共胤氏

2 市町村からの話題提供

石狩川流域圏会議について

旭川市土木部土木総務課長
岩崎 昌美氏

3 質疑応答

4 財団からの情報提供

詳細は　一般財団法人　石狩川振興財団　ウェブサイト
http://www.ishikari.or.jp/ 事業紹介 -1/ 地域振興 - 流域連携事業 / に掲載しています

石狩川流域圏会議

石狩川流域圏会議は、石狩川流域全46市町村の首長から構成されており、平成 23 年に発足しました。石狩川振興財団は、石狩川流域圏会議の活動と連携しながら、石狩川流域市町村の活性化に努めています。

1 豪雨災害対策職員研修

危機管理演習の様子　写真：旭川市

石狩川流域では昭和 56 年の水害以降、流域全体に被害が及ぶような大きな水害がないため、市町村の中でも水害の経験のある職員が減少しています。このため、石狩川流域圏会議では、豪雨災害を担当する市町村職員を対象として、平成 25 年度から豪雨災害対策職員研修を実施しています。平成 27 年度は、7 月 28 日、29 日の 2 日間、旭川市において開催され、27 市町村から職員が参加しました。石狩川振興財団は、29 日午後の危機管理演習を担当し、大規模豪雨による被害想定と状況の進展シナリオに基づき、参加者は、各段階における適切な対応を検討するとともに、問題点や留意点を把握することを目的とした訓練を行いました。

2 石狩川サイクリングコースマップづくり　～上流編・全体編～

コースの現地調査

石狩川流域圏会議では、自転車で石狩川流域を結びつけ、流域全体の活性化を図ることを目指して、サイクリングコースマップづくりに着手し、平成 26 年度は石狩南部＆空知南部編が作成されました。平成 27 年度は、上流編として旭川～美瑛間マップの作成を目標に、コースの設定や掲載情報等の検討が行われました。平成 28 年度はマップの完成を目指し、5 月にコース試走と検証を行い、7 月には旭川～美瑛間のコースとマップデザインを決める予定です。また、全体マップの作成については、平成 27 年度は、必要な情報等の検討が行われました。平成 28 年度は、5 月に全体マップのコース（案）作成と掲載情報等の検討が行われ、7 月には全体マップのコース（案）の選定とマップデザインの検討が行われる予定です。

石狩川流域サイクリングマップ
完成した石狩川サイクリングコースマップ
石狩南部＆空知南部編

平成 27 年度選奨土木遺産　茨戸川の岡崎式単床ブロック護岸。当時の施工風景（竣工大正６年）。国内に普及している連節護岸の礎となる施設。

一般財団法人　石狩川振興財団

●発行　平成28年7月

●住所

〒060-0051

札幌市中央区南１条東１丁目５ 大通バスセンタービル１号館８階

TEl: 011-242-2242 FAX: 011-242-2445

●ホームページアドレス　http://www.ishikari.or.jp/

※表紙写真：平成27年7月19日、20日の両日、千歳川で“CHITOSE RIVER CITY PROJECT 2015”が開催された。千歳川の浅瀬に作られたステージでは、夜間、プロジェクションマッピングを使用したライブが行われ、幻想的な河川空間が出現した。